



なすびの花

ISO 認証取得で変わったこと

5月に、今年度の品質・環境内部監査が終了し、6月は、とりまとめなどの後作業を行いました。

内部監査の結果を受けて、社長から

『工場移転の変化点を迎えて、原点に立ち返り、ISOに取り組むことで、何がどう良くなったのか？ 効果の確認をまとめてください。』と指示がありました。

はて？、毎年、ISO事務局としての雑務を、恒例行事のようにこなすことに必死で、効果に関して、思いを巡らせることは、あまりなかったように思います。

ISO認証を取得してから四半世紀、この年月で、会社はずいぶん変わってきています。

最初に変化したのは、文書管理でしょうか。

業務には、必ず必要な文書が、作業している人々の目に触れることが、ほぼ無い中で作業していたことを思い出します。

仕様書や、作業標準書、手順書といった書類が整っていき、『品質』というものを、管理者から作業員までが、実感し出したように思います。

さほど知識もなかった社内の人々が、徐々に『品質』や『環境』の大切さを学びながら、少しずつ少しずつ今の状態に成長してきました。

認証を取得した最初の頃は、実務上でこのISOマネジメントシステムというものが機能している実感はありませんでした。

その頃、Y次長が粘り強くみんなに、

『このシステムを利用することで、会社が良くなるんですよ！』

と説いて、そのことを全員が理解できるまでが、

かなり長かったですね。

やらされ感や、形骸化の危機といった時期を乗り越えて、昨今では、イーエルらしきを取り入れながら、良い具合に、このシステムの利点を活かした仕組みづくりができたと感じています。

今では、社内の各部署のシステムも、それぞれの部署のカラーで構築され、運用されています。

ISO認証を取得することにより、

- 1. 製品や企業の価値・信頼性が高まる
- 2. 事業参入の機会やビジネスチャンスが増える
- 3. 組織の改善につながる
- 4. 業務や品質の安定化を図れる
- 5. 役割・責任・権限が明確になる

といったメリットが得られます。

特に、3番・4番・5番のメリットは、経過を見てきた中で、実感している項目となっています。

さて、今年もISO維持審査の日程が近づいてきました。

システムとして運用できているとは言え、うっかり忘れていたりことや、後回しにしていることがあるかも知れません。

維持審査前に、1年分の自部署の業務内容、手順、記録類の見直しをしておきましょう。

座右の銘

検査課の教育の中で、『職場の報連相』という通信教育講座を受けてもらっています。

そのテキストの中に、『座右の銘を持つとう』という項目があります。

座右とは座席の右側のこと、その昔、皇帝のような偉人は、一番信頼できる補佐役を右に座らせることが多く、銘は、「心に刻んで忘れない言葉」という意味で、

「常に自分の心にとどめて置き、戒めや励ましとする言葉」のことを『座右の銘』と言います。

テキストには、

『座右の銘は、職業生活を活かす「信念」のもとである』

と書かれています。

『報連相』において、「正直に報告する」、「悪い情報を早く報連相する」ということに、「信念」から出る勇気を持つとうのこと。

生きる姿勢、態度についての指針とする、『座右の銘』は、そのまま仕事に対する姿勢、態度とも重なっています。

皆さんは、日頃から意識している言葉や、自分を励ますために心に留めている、『座右の銘』を持っておられますか？ 難しい中身でなく、シンプルな言葉で良いと思います。

ちなみに私が師と仰ぐ、とある方の座右の銘は、

『失敗しても命までは取られん』

とのことで、失敗しても、経験値になり成長の糧になる、素敵な言葉です。

『座右の銘』って持ってないなあ…とおっしゃる皆さんも、

『座右の銘』を考えてみてはいかがでしょうか。